

**立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)**

**大学院学生研究**

**2016 年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院		文学研究科	超域文化学 専攻	
<b>研究代表者</b> (2017年3月現在のもの を記入)	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	文学研究科・超域文化学専攻・前期 課程1年		佐藤瑠奈 印		
<b>指導教員</b>	所属・職名		氏名		
	文学研究科・超域文化学専攻・教授		栗田和明 印		
<b>自然・人文・社会の別</b>	自然	・ <input type="checkbox"/> 人文	・ 社会	<b>個人・共同の別</b> <input type="checkbox"/> 個人	・ 共同 名
<b>研究課題</b>	国際比較でみた日本のオタクーアニメオタクの装いに注目してー				
<b>研究組織</b> (研究代表者・共同研究者) ※2017年3月現在 のものを記入	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	文学研究科・超域文化学専攻・前期課 程1年		佐藤瑠奈		
<b>研究期間</b>	2016 年度				
<b>研究経費</b> (1円単位)	(支出金額) 149,470円 / (採択金額) 200,000円				

**研究の概要** (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

近年日本のアニメオタクの間で急増している、缶バッジやラバーストラップなどのアニメグッズを大量につけたバッグ「痛バッグ (通称: 痛バ)」に代表されるような、日本のアニメオタクならではの独特な「オタクの装い」に注目して、そういった日本と海外の「オタクの装い」を比較する。実際に国内外のイベントに足を運び、聞き取り調査をすることで、国内外における「オタクの装い」に関する相違を明らかにし、日本のオタク文化の持つ独自性について深く研究することが本研究の目的である。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ サブカルチャー ] [ アニメ ] [ 装い ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

## 1. 本研究の目的

本研究は、日本と海外における「アニメオタクの装い」を比較することで、日本のオタク文化の持つ独自性を明らかにすることが目的である。そのため立教 SFR 交付期間には、日本のアニメオタクの装いに焦点を絞り、その特徴を明らかにすることを目的として設定した。

## 2. 手法

上記の目的達成のため、立教 SFR 交付期間中に国内のアニメ関連のイベントへと赴き、参与観察と参加者へのインタビューを行った。SER の経費による出張では、これまで一度も足を運んだことのない大阪・福岡のコスプレイベントへと赴き、それぞれの参加者 1 名ずつに 1 人に対し約 3 時間ほどのインタビューを行った。

## 3. 現在の成果

現地コスプレヤーへのインタビューによれば、どちらのイベントもそれぞれの地域ではよく耳にするという大きめのイベントだったようだが、多くの参加者がその地域独特の方言を用いており、地元のコスプレヤーの参加率が高いことがわかった。しかし約 2、3 割は別地域からの参加者も含まれているようで、他地域でのイベントの話をしている人も少なからずいた。また、大阪のイベントでは奈良、京都あたりからの参加者も多くいるようだった。

これらの参加者の中には申請当初、注目したいとしていた「痛バ」を持つ人も多くおり、作品ジャンルごとに複数バッグを用意している人もいた。現状、痛バはアニメオタクたちの間ではそう珍しい物ではなくなり、イベントで持ち歩く人も多くいる。インタビューによれば、痛バにも①同じグッズをひたすら並べて付けるもの、②ひとつ大きなグッズを真ん中にしてそれを囲むように他のグッズをつけるもの、③ハート形など配置を工夫し何かしらの形を作るようにグッズをつけるものなど幾種かのパターンがあることがわかった。しかしそれぞれのパターンが何型と呼ばれているかについてはこれといった決まりがないようだ。①「並列型」②「祭壇型」などと呼び分けている人もいた。また、ただグッズを並べて付けているだけのものよりも、配置を考え工夫して作られている物の方が愛情を感じるという人もいれば、見た目のきれいさより多くのグッズがついている方が愛情を感じるという人など、痛バへの愛情の感じ方には様々な考えがあるようだ。しかし結局は作成者本人がどのくらい愛情を持ってその痛バを作成したか、グッズのキャラクターに対しどれだけの愛情を持っているかが重要となるようだ。痛バはアニメオタクたちにとって、愛情表現の一種として他者にわかりやすくアピールする手段となっている。また、同人誌やグッズの売買がなされる場においては自分の好きな作品やキャラクターをアピールすることで、トレードがスムーズに行えたり、他の参加者との交流のきっかけになるケースも少なくないという。

コスプレイベントへの参加者は、現地までは私服で赴く。徒歩の場合、衣装はキャリーケースに入れて持ち運ぶことが多いようだが、中にはポストンバッグやリュックに詰め身軽に移動する人もいる。私服をアレンジした衣装の際など、外を出るいても違和感のない服装であった場合は一部のみ着用して向かう人もいるとのことだったが、明らかに日常生活では着用しないような衣装での外出はしてはいけないというのがコスプレ界のルールであるとのことだった。また、コスプレメイクは日常でのメイクに比べ濃く施す人が多く、私服では違和感が出てしまうため、下地だけで赴くなど、会場に到着してからの準備時間短縮に努めているという意見を聞くことができた。イベント後はアフターと呼ばれる打ち上げに行く人も多く、その場合は落としにくい眉毛など一部のメイクはそのままに、サングラスを着用するなどしてスムーズに移動できるよう心掛けている人もいる。服に関しても、脱ぎ着はしやすいが手抜きには見えないような恰好を模索して着用していると話していた人もいた。また、イベント会場の更衣室は混雑するため、できるだけ早く準備をして次の人に場所を譲らなければならない。そのため参加者は①ほかの参加者、②(複数人で参加している場合は)一緒に参加している相手、③(カメラマンがコスプレヤーとは別にいる場合)着替える必要のないカメラマンと 3 種の参加者のことを考え出来る限り早急に場所を譲る努力をしている。

以上のように、イベントの規模・参加者について、痛バの種類・所持する意味、コスプレイベントでの服装に関する聞き取りができた。

研究成果の概要 つづき

※この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

該当なし